

依命留学報告書

学科名 国際農業開発学科

職名 助教

氏名 飯森 文平

1. 留学先

フィジー共和国：南太平洋大学（The University of The South Pacific：USP）

2. 研究課題

太平洋島嶼地域の沿岸漁業資源管理における地域コミュニティの役割

3. 留学期間

2024年9月4日～2025年9月3日

4. 留学期間中の活動報告

本留学では、太平洋島嶼地域における自律的かつ持続的な村落社会生活の発展のあり方について、サブシステムや資源利用に着目し検討することを大きな目的とした。

研究の実施にあたっては、既存資料の収集に加えて、留学先であるフィジー共和国の離島部 M 村で複数回のフィールドワークを実施し情報を収集した。当初は漁業資源（海の資源）に焦点を当てる予定でいたが、予備調査の結果、M 村では海と山の両面の資源を利用していることが見えてきたため、調査の方向性として海と山双方の資源利用に目を向け、まずは村の社会と生活がどのように成立しているのかを総体的に捉えることを最優先課題とした。具体的な調査については、観察・参加（参与）・立ち話、インフォーマルインタビュー、調査票（半構造化質問票）を用いた聞き取りなど様々な方法で実施した。M 村に滞在する中で見えてきたのは、村の生活基盤は村人の知恵や技術に基づき村人自身で成立させてきたということであり、自律性や持続性は彼らの生活実践の中にこそ見出し得るということであった。今回は、村の生活を総体的に捉えるという方向に途中で軌道修正を行ったため、結果としては広く浅い形の調査に終始した部分もあるが、今回の滞在において M 村の皆様との関係が築かれたので、今後も同村での調査を継続し、この点について考えを深めていきたい。

現地では、留学先の USP のスタッフはもちろんのこと、現地在住の多くの日本人の方々とも知り合うことができた。JICA や大使館をはじめ、様々な機関や分野で働く方々と交流を深める中で、オセアニア地域における国際協力の現場が抱えている課題などについて多くを学ぶことができた。

今後、今回の留学で得られた成果や経験を研究活動や学生教育の場に還元していくように努めていきたい。

最後に、今回の留学の実施にあたり、様々なサポートをいただきました全ての皆様に心より感謝申し上げます。